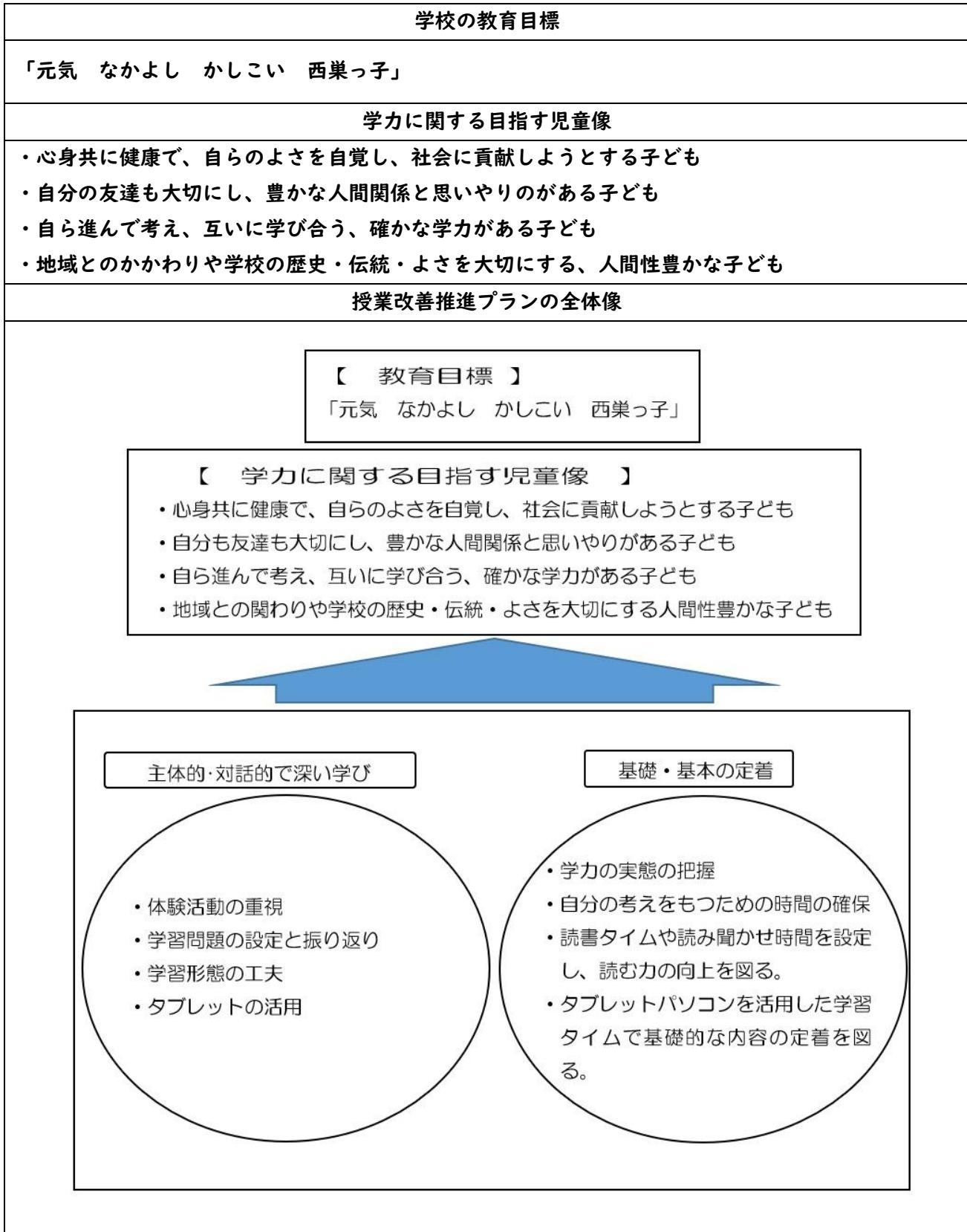


令和7年度 授業改善推進プラン（全体）

学校名	豊島区立西巣鴨小学校
校長名	後藤 大輔



令和7年度 授業改善推進プラン（各教科）

1 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
言葉を正確に理解し、適切に用いて自分の考えや思いを表現できる能力の育成		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	知っている言葉であっても、意味を理解していないことがある。	・平仮名を学習する際に言葉集めをし、言葉の意味を視覚的資料などで確認しながら語彙を増やす。
低	語彙が少なく、知っている言葉でも、言葉のもつ意味や正しい使い方について理解が乏しいため、自分の考えをうまく表現することが難しい。	・音読、読書活動や読み聞かせを通して語彙を増やし、言葉の使い方を習得させる。 ・自分の思いや考えを友達や担任に伝える活動を設け、言語のもつよさを感じさせる。
中	基本的な読み書きを正しく行うことはできるが、日常生活で活用する意識に差がある。 目的に応じて文章を書いたり、相手の話を聞き取った上で自分の意見を伝えたりすることが難しい。	・自分の考えをもてるよう努め、發問を工夫する。 ・1時間の授業の中に、協働的に学び合う時間を設ける。話し合う場面では、自分で考える時間を設け、それをもとに友達と話し合い活動ができるようにする。 ・日常的に文章を書く機会を増やし、書くことへの苦手意識や抵抗感を減らす。また、テーマを与え、テーマに対して自分の考えがもてるよう努める。
高	他人と異なることや正解、不正解にどちらも過ぎて、自分の考えを表現することに抵抗感をもっている児童が多い。	・多様な意見が出るような話し合いの機会を増やしていく。意見の共通点や相違点を整理させながら話し合いを行わせる。 ・ICT機器を活用し、友達がどのように表現しているのかをその場で確認できるようにして、表現力の向上に生かす。

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
社会的事象の見方・考え方を広げ、自らの問いを追究しながら考えを深めることができる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	複数の資料を関係付け、それらを根拠にして、自分の考えをもつことが難しい。	資料の違いや共通点に着目させ、比べながら読み取る發問や活動を取り入れるようにする。
高	社会的事象や、学習で得た知識や視点をもとに、これから社会の在り方や問い合わせを追究することが難しい。	社会の出来事と関連付けて考えられるような問いを設定し、自分の意見をもつ場面を意識的に取り入れるようにする。

3 算数科

目標とする児童像を基にした算数科での資質・能力		
基礎的な知識理解などの学力の育成。事象を数理的に捉えて、算数の問題を自ら見い出し、自立的・共同的に解決する能力の育成。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	数や、足し算・引き算は知っているが、その意味理解に関しては不十分である。	視覚的な教材や、手での動作をたくさん経験させることで、学習内容の定着を図る。
低	基礎的基本的な計算力はある程度ついている。長さや水のかさ、時刻と時間の単位変換などの学習内容の定着、理解が低い。	具体物を用いて実物に触ったり、計測したりと、単位測定の経験をたくさんさせて量感を養う。
中	基本的基本的な計算能力はある。既習内容を活用して問題を解決する能力は高くなない。	授業の始め、朝学習の時間などを用いて、繰り返し練習を行うことで学習内容の定着を図る。具体物を用いたり、計測したりする活動を通して数量や形の感覚を養う。話し合い活動を積極的に取り入れていくことで問題解決能力を育成していく。
高	基礎的基本的な学力の定着が不十分な児童がいる。問題を多角的にとらえ、考えをより豊かにしていく必要がある。	授業の始め、朝学習の時間などを用いて、繰り返し練習を行うことで学習内容の定着を図る。具体物を用いたり ICT 機器を活用したりして数量や形の感覚を深めていく。問題解決を行わせる際に、めあてやポイントを考えさせてから活動に取り組ませる。また、様々な考えに触れられるように学び合いや話し合い活動の時間を十分に確保していく。

4 理科

目標とする児童像を基にした理科での資質・能力		
体験活動を重視し、問題解決のための実験や観察をすることで児童が主体的に考え、学習を深めることができるようとする。高学年においては、プログラミング教育の実践を計画的に進め、プログラミング的思考能力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	実験や観察をすることには高い関心・意欲がある。ただし、問題を把握して正しく結果を記録したり主体的に考察したりすることが難しい。	問題を明確に提示し、結果の記録のしかたを表や図で表すようにしたり、結果と考察の違いを明確にしたりする。考察は、問題に対する答えが基本であるように指導して、基本的なことは全体で揃えて記録するようにして定着させ、主体性を引き出させる。
高	人体や植物に関する学習においての理解が低い。 実験や観察で得た結果からどのような	実際に育成したりシミュレーション体験をしたりして、体験学習を通して学習を身に付けていく。 実験や観察を行うだけでなく、結果をきちんと出

	<p>ことが分かるのか（考察）が結びつかない。</p> <p>日常的に ICT を活用し、PC の操作には慣れているが、プログラミング的思考は身に付いていない。</p>	<p>し、そこから分かることを考察し、まとめや振り返りを確認する過程の中で学習の定着を図る。</p> <p>電気の性質や働きを利用した道具を用いて、プログラミングを体験し、プログラミング的思考を身に付ける。</p>
--	--	---

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
身近な人々、社会及び自然を自己との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現する能力の育成。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	教員が予め活動やルールを決めて児童に伝えることが多い、児童の思いや願いを活動やルールづくりに反映させたり、保育園や幼稚園での活動を生かしたりする機会が少なくなりがちであった。	余裕をもった予定を組み、児童の思いや願いの実現に向けた活動を行ったり、保育園や幼稚園での活動を生かしたりすることができるようとする。
低	自分が考えたことや感じたことを表現することに苦手意識をもつ児童が多い。	自ら考えたり観察したりする場面では、考える視点や観察する観点を明確にして指導し、主体的に自分の言葉で表現できるようにする。友達と気付いたことを交流する機会や時間を増やす。

6 音楽科

目標とする児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
音楽的な見方・考え方を働かせ、友達と楽しく協働しながら音楽について考えを深め、音楽を味わって聴いたり表現したりする力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	音楽を楽しみながら、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組む児童が多い。	幅広い活動に取り組む中で、音楽を形づくっている要素に気を付けながら基礎的な力を身に付け、友達との関わりから表現の発想を広げていくことができるようする。
中	様々な学習に意欲的に取り組む児童が多い。表現したいという思いを、実際の音として表現する力を身に付ける必要がある。	題材を通して重点的に学ぶ要素を焦点化しながら、児童がどのように表現したいかという思いを大切にし、必要な技能はスマールステップで積み重ねて身に付けられるようにする。
高	表現することへの意欲が高まっている児童が増えているが、技能面やどのように表現するかについて思いをもつことにおいては、個人差がある。	既習事項を生かしながら学習を積み重ねるようにし、個々の様子を見取りながら、必要な技能を身に付けられるような学習方法や課題を工夫する。また、友達との関わりの中で音楽についての考えを深められるよう、課題設定の方法、ワークシート、表現や考えの交流の仕方などを工夫する。

7 図画工作科

目標とする児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
つくり出す喜びを味わい、造形的なよさや美しさに気付き、創造的に表現し、お互いを認め合える豊かな心		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	自分から進んで表現活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうことができる。	学習意欲を活用し、楽しみながらもねらいを明確にし、つくる喜びを味わわせる。
中	楽しんで活動し、自分なりの創意工夫が見られるようになっている。	様々な材料に出合させ、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。
高	意欲的に活動はしているが、題材の深め方に個人差が出ている。	題材の合間に鑑賞の時間を取り入れたり、お互いのよさを認め合ったりし、自分らしい表現とは何かを考え、深められるようにする。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
体験活動を重視して児童が主体的に考えることができる学習問題を設定し、自ら考え、生活に生かせるようとする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	・生活体験が乏しい児童がおり、豊かな児童との差ができている。 ・学んだことが授業内で終わってしまうことが多い。	体験的な学習を通して、自分の技能と知識を働かせ、物事を成し遂げた達成感を経験できるようにする。また、家庭とも連携し、得た自信を自分の生活に生かそうとする意欲・態度につなげる。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
自己やチームの現状を把握し、友達と協働しながら、課題解決に向けて主体的に取り組む力。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	多くの児童が、どの運動領域にも主体的に取り組むことができている。一方、規律やルールを守れない児童や、友達に指摘し合う児童がいる。	アイスブレイクや運動遊びを多く取り入れ、自分たちでルールを守る大切さに気付けるようにする。また、運動をお互いに見合う機会を設け、言葉かけの具体例を共有しながら、アドバイスし合えるようにする。
中	多くの児童が、どの運動領域にも主体的に取り組むことができている。一方、自分の課題に合った場や練習を選ぶことが出来ない児童がいる。	全体で課題の確認をした後、場を選ぶようにする。また、細かく場を分けることで、自分に合った場を選べるようにする。その際、ICTなどを活用し、視覚的に場を把握しやすいように工夫する。
高	多くの児童が、どの運動領域にも主体的に取り組むことができている。一方、自分やチームの課題に応じた具体的な解決策を見い出せられない児童がいる。	お互いを見合ったりアドバイスし合ったりできるよう、協働学習の機会を多く設ける。また、タブレットの動画撮影機能の活用だけでなく、ポイントやコツの動画や解説をタブレット上で共有し、それを用いて友達と話し合い、よりよい解決策を見い出せるようにする。

I 0 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語科等での育成したい資質・能力		
外国の言語や文化について体験的に理解を深め、コミュニケーション能力の基礎を身に付けさせる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> 恥ずかしがらずに、楽しみながら外国語活動に取り組める児童が多い。 友達の話を聞いたり、自分の思いや好きなことについて伝えるのは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ALTとも連携しながら、友達と関わるチャンツやアクティビティを多く用いて、コミュニケーションを図る楽しさを味わえるようにしていく。
中	<ul style="list-style-type: none"> 歌やチャンツ全般は、繰り返し行うことで、楽しいという実感をもって取り組んでる児童が多い。 コミュニケーションでは、伝えたいという思いはあるものの、表現の仕方に戸惑う児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ALTとの連携の中で、アクティビティを増やして楽しみながら単語を覚える。 他教科との学習内容と関連付けた児童の好奇心に沿った言語活動を設定したり、既知の内容と関連付けて意味を予測したりできるように、計画的に進めていく。
高	<ul style="list-style-type: none"> 友達とのやり取りの中で聞いたり話したり、また発表でより多く話したりすることに積極的に取り組む児童と、そうでない児童がいる。 書くことについては個人差が大きく、苦手意識をもつ児童が多い。 ALTなどの話す英語が速く、会話を聞くだけで自分はできないと苦手意識をもつ児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> やりとりに関して、より積極的に取り組めるよう、構成を工夫する。 書くことについて十分な時間を確保するとともに、単調な繰り返しの学習にならないよう、何らかの書く目的をもたせたり、ゲーム的要素を取り入れたりするなど、児童の学習意欲を高める工夫をする。 ゆっくり話したり、会話を区切り、日本語でフォローを入れたりしながらただ児童が聞くだけの時間を減らしていく。

II 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
道徳的価値をふまえて、物事を多面的・多角的に捉え、自己を深く見つめることができる資質・能力の育成。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	自分の気持ちを優先してしまい、相手の立場になって考えづらいことがある。	役割演技を通して、相手の立場に立ち、相手の立場を経験することで、気持ちを体感させる。また、相手の気持ちを言語化する活動を積極的に取り入れる。
中	自分の意見を認めてもらいたいという思いが強くなり、他者の考えを受け入れる柔軟さがもてないことがある。	意見の対立がある題材を取り上げ、違う考え方の良さを認めたり、考えたりする場面を増やす。

高	自我の芽生えによって、理想と現実の葛藤に悩む姿がある。将来や社会との関わりを考える意識はあるが、実生活にどうつなげるかが弱い。	道徳的ジレンマ教材を使い、正解が一つではない問いと向き合い、物事を多面的に捉えられるようにしたり、その際に自分だったらどうするかを考え、選択・判断できるようにする。
---	---	--

I 2 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
現代社会の現状や身近な事柄から課題の設定し、ゴール（目的）を意識して課題解決の能力を育成する。様々な年齢、立場の人と交流することで、相手のことを考え、自分も相手も大切にする児童を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	自ら課題を見付け、課題解決することが難しい場合がある。	課題になり得る例示を出し、選択させるなど学びやすい環境をつくる。
高	課題を設定し、情報を収集することは児童自ら進んで活動できるが、集めた情報の中から、よりよいものを選んだり、よりよいものを考え出したりすることが難しい場合がある。	情報を整理・分析する活動には、様々な方法があることを例示し、自ら選択できる引き出しを増やしていく。 タブレットで得られる情報だけでなく、実際に校外の人と交流する中で情報が得られるよう、場を意図的に設定する。

I 3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりより生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。		
学年	実態	具体的な取組
低	I、2年生の交流活動を楽しみ、1年生は未来の自分をイメージし、2年生は、自分たちが今までしてもらってきたことを1年生にしてあげようとする姿が多く見られる。自分の役割を意識し、創造的に役割を果たしていくことはまだ難しい。	I、2年生の交流活動を常時行える環境作りや、集会を定期的に行い役割を果たしていく機会をつくる。また、適切に振り返りを行わせ自己の成長を実感できるようにする。
中	学級内や学年での交流を楽しみ、多くは主体的に自分の役割を果たそうとするが、役割が理解できていない児童や、主体的に取り組めない児童もいる。友だちとの関わりも広がってきているため、トラブルが起きることも増えている。	集団活動の中での自分の役割が明確になるよう、めあての掲示や役割カードなどを作成し、個々の役割を明示してふり返りを行う。友だちとの関わりも定期的に確認し、関わり方のよい児童を紹介したり、よい関わり方を知らせたりする。
高	高学年としての自覚をもち、学校をより	様々な行事や活動の中で、リーダーを固定せず、

	よくしていこうと積極的に活動する児童と、そうでない児童がいる。また、多様な意見が出づらく、新しい考えが生まれにくい状況にある。	様々な児童にリーダーを経験させたり、誰もが安心して意見を出し合ったりできるような仕組み作りに努め、一人一人が責任をもって取り組むことができるようしていく。
--	---	---

| 4 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習及びゲストティーチャーを招いての出張授業に都度参加している。 ・各教科の授業においては個別指導計画を基にして複数名が参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次期学習指導要領の内容を鑑みると、学年相応段階の各教科の内容についても都度ふれさせていただきたい反面、児童の段階が指導内容とそぐわない状況もある。実態を基にしたスマールステップでの指導を継続して行い、児童自身が自分でできることを増やしていただきたい。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習及びゲストティーチャーを招いての出張授業に都度参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年では各教科の授業に交流学習として参加している児童はいない。児童自身の不安が大きい点が要因となっている。通常の学級の担任と相談しながら、たけのこ学級での交流学習・活動を段階的に進めていく。 ・各教科の交流学習については低学年と同様に取り組んでいく。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習及びゲストティーチャーを招いての出張授業に都度参加している。 ・6年生が全員移動教室に参加した。5年生も複数名2学期に参加予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで行ってきた交流及び共同学習の成果が実り、通常の学級と友好的な関係を築くことができている。一方で、運動会での交流などは合理的配慮の視点に立ってたけのこの児童も通常の学級の児童も気持ちよく参加できるように通常の学級の教員と適宜打ち合わせを行いながら指導にあたっていく。(低・中・高全体に言える。) ・各教科の交流学習については低学年と同様に取り組んでいく。